



2016年6月4日発行

No.39

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：吉田 茂 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <http://www.waseda-honjo.jp>

ベクトルの外積、十五の心

学院長 吉田 茂



四月二十五日、臺北市立建國高級中學の生徒三〇名、先生二名、引率保護者一名の来校があつた。この学校は臺灣最古、最難関の高校で、馬英九前總統の出身校でもある。高校一年生の教育旅行の一環で本学院を訪れたのだ。生徒会、バディー（生徒有志）、プラスバンド部、茶道部、書道部、グリークラブ、さらに関係の先生方の協力を得て、一日交流を行うことができた。その交流で印象に残った二つの事を書こう。

一つは高校三年の選択科目「数学ⅢB」の授業中のことだ。あるベクトルの問題を指名された建國の生徒がベクトルの外積の解法でそれをスラスラと解くと、教室には一瞬のどよめきが起った。またたくの門外漢であるから詳細はわからぬが、日本の高等学校学習指導要領では、ベクトルの外積の学習は含まれないと聞く。本学院は私学の附属高校だから、どこかで学ぶのであろうが、一般の高校では、学習指導要領の縛りから、それを扱わないようだ。また、臺灣のいわゆる重点高校では、臺灣型のAP (Advanced Placement) プログラムが用意され、優秀な生徒は大学において学び、試験に合格すれば大学入学後に大学の単位として認定されるという制度を導入している。早稲田大学にもこの制度に似る高校生特別聴講制度があるが、それが希望者に限定され参加人数が少ないことに對して、臺灣の場合、高校一、二年生の成績上位者七パーセント、高校三年生の成績上位者二〇パーセントの優秀な生徒が対象で、比較的多くの生徒が大学で学ぶところに差異があるように思う。こうしたいわゆる促成栽培型の教育には弊害もあるが、高大接続の点、優秀な人材を育成する点から一つの教育の方向性を提起するもので興味深い。

二つ目は、十五歳の問題である。建國の生徒を送る「お別れ会」で本学院のグリークラブが手紙を拝啓 十五の君へ「アンジェラ・アキ」を歌った。見事な歌声を聞き、涙が頬を伝わるのを感じながら様々なことが心に浮かんだ。「負けそうでも泣きそうでも 消えてしまいたいような僕は 誰の言葉を信じ歩けばいいの?」「このか細い心が「十五の心」かと。「十五の心」と言えば、啄木の「不來方（こずかた）のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心」の歌が思い出される。これは、彼の盛岡中学時代、授業を脱けだして、不來方城（盛岡城）の草の上に寝ころんだ時の感懷を十年後に回想した歌である。「十五の心」を若き日の青雲の志と理解するむきもあるが、そんなに単純ではなからう。「十五の心」を、啄木十五歳の、希望や葛藤、不安や野心の入り交じった複雑な心と解したい。また、早逝した尾崎豊は、「とにかくもう学校や家には帰らたくない 自分の存在が何なのかさえ 解らず震えている15の夜」と、自己存在を肯定できず、持て余す自分を歌っている。

自分にも十五の時があった。軟式庭球部に属し、真っ黒になって白球を追いかけて自分の姿を思い出すのは容易だが、「十五の心」はすっかり過去という深い霧の中に埋もれてしまっている。若い時を希望に満ちあふれる時代など簡単に言うが、「希望」のもう一つの読みは「ふあん」なのかもしれない。

幼稚化現象が、若者はかりでなく大人全般に起こっていることだとすれば、「十五の心」は高校生全般に当てはまることにもなろう。希望と不安が入り交じる高校生を相手に我々は教育を行っていること、保護者の皆様はその心を持つ子どもたちと対峙されていることを再確認しなければならぬのではないかと。だからと言って、腫れ物に触るような対応を求めているのではない。十五の心を持つ生徒、子どもだと意識して忌憚なく語りあったら良いように思うのである。



グリークラブ

理想のリーダーの姿とは

保護者の会 会長 山口 健二



東日本大震災から、5年が経ち、復興を振り返る報道がされているところに、熊本の大地震が起きました。いつまで続くのかわからない余震が、被災された方達を一層不安にさせています。必然的に、人々の災害に対する備えの意識も高まっています。100年周期だった産業革命とスマホの出現で時代の流れは、スピードを加速させ、情報社会、人工知能…：変革の周期もだんだん短くなっています。社会問題も国境を越えて発生し複雑な世の中になっています。早稲田大学本庄高等学院及び早稲田大学は、変化の激しい社会で中核的な存在となる人材の育成を望まれています。つまりグローバルリーダーの育成です。

では、「リーダー」とは？リーダーに求められることは？時代は変わっても、リーダーの役目だけは変わりません。そのチームが成果を上げることが役目です。そして、リーダーにカリスマ性を求められていた時代とはちがいが、今は組織・チームを支える力が必要とされています。つまり、チームを導く調整能力、物事を正しく判断ができるバランス感覚、チームのメンバーおよび対外的にも意志伝達のできるコミュニケーション能力です。リーダーになるために生まれてきたような人かもしれませんが、リーダーになろうとするのではなく『まわりに推されてリーダーになる』『これが理想のリーダーの姿だと思います』。

幕末の幕臣、山岡鉄舟が清水の次郎長と出逢ったときのエピソード。鉄舟が「おまえの子分だ、おまえのために、命を捨てて人は何人いるかい?」次郎長は粋な言葉で返しています。『いやあ、あつしたために命を捨てるような子分はひとりもいません。わしのために命を捨てるものはいませんが、わしは、自分の為にとつても命を捨てる覚悟をしております。』と、粋にこたえたそうです。子分が聞いたならモチベーションが上がる言葉です。

もちろん、成功体験を多く持ったリーダーも必要です。リーダーといえは華やかな経歴を持った人が少なくありません。だからでしょうか、特別な能力が必要だと思い込んだり、挫折や苦しい体験を隠そうとしてしまったりする人がいます。むしろ逆でたくさん挫折経験を持ち苦しい体験を持った人こそ、リーダーになるべきなのです。苦しんでいる人の気持ちがかかるからです。その気持ちを理解した上で行動ができる。そんなリーダーを待ち望んでいる人は大勢いると思うのです。挫折や失敗が人を優しくします。『世の中は、3...4...3』優秀3割 普通4割、できない3割。優秀なものだけが集まっても、その中で3...4...3ができます。そして優秀といっても、すべてに秀でているわけではありません。得手・不得手など個性を見抜く。チームとしての基本スタイル、必勝パターンを持つ。上に立つのでなくチームの「中心」で機能する。それが成果を出すリーダー像だと思います。

早稲田の伝統は輝かしく、名だたる卒業生を輩出しており、手本となるリーダーもたくさんおられます。リーダーを育成する環境にあることが幸運なことであり、他校にはない、誇るべき学風だと思います。保護者としても我が子には、早稲田の教育環境を思う存分活用してほしいと思います。

最後になりますが、保護者の会は保護者と学院が緊密に協力し子供たちの成長の支援を行い、保護者同士のコミュニケーションを図ることを目的に活動しています。幹事同士は、行事をすることに親密になり、活動しながら自分たちも学生時代に戻ったような感覚になります。本年度も早稲田のすばらしい環境のもと子供たちのさらなる活躍を願い活動していきたいと思います。



先日、少し時間のできたので榛名湖へ行くことにした。山桜を見て、日帰りの温泉に入ってくることにしたのだ。本庄から車で一時間ちょっとで着いた。

あいにく濃霧に見舞われてしまった。インターを降りたときには何となく濃霧が濃くなった。そして榛名山に登り切ったところには視界全体が真っ白になってしまった。車を運転していたので霧の中から対向車が「わっ」と飛び出してくるよう怖く、なんだか気分も暗くなってしまう。

榛名湖に着いたが、山桜はおろか湖面も見えない。立ち寄ったお店の主人も「すみませんねえ、霧になってしまつて」と仰るほど。いよいよ、ご主人が謝る必要はないのだが、察するに、ご主人にとって榛名湖は自身と切っても切り離せない関係なのだろう。榛名湖に代わって謝りたい、というご主人の気持ち、素敵だと思った。

目的の温泉は意外と混雑していて、そのほとんどは外国からのお客さんだった。英語、中国語が飛び交っていて、トイレの使い方がわからないお客さんがいたり、貴重品が心配なの洗い場にリュックサックごと持ち込むお客さんがいたりした。そんな光景が不思議であった。露天風呂で真っ白な景色を見ながらゆつくりしていたところ、しだいに霧が晴れてきた。湖面が見え、鳥が囀り、榛名湖らしい景色が広がる、私の気分も晴れてきた。よくわからない旅になったが、終わってみれば楽しいものだった。

話は飛んでしまつたが、学生時代からこのような小旅行が好きだった。日常をちよつと離れ、好きな音楽を携帯して（当時はウォークマンだった）、熱海、鎌倉、そして前橋や新潟を散歩した。旅先には必ず発見があつて、大切な思い出となる。みなさんも忙しい日常を少しだけ離れて、小さな旅行をしてみたいかがだろうか。

(MM)



ヘルシンキ滞在記

羽 田 一 郎

ヘルシンキの夏は快適だった。35℃を超える猛暑の日本と比べると、気温20℃前後だけでも別世界であった。午後11時過ぎてもホテルの窓から西日が差してくる経験は初めてであった。昨年度特別研究期間制度を利用して、ヨーロッパで毎年開催されている数理論理学の研究集会であるSummer School in Logic (2015年7月27日～31日) Logic Colloquium(8月3日～8日)に久し振りに参加した。開催地がフィンランドのヘルシンキということも参加の大きな理由の一つであった。子どもの学力が世界のトップクラスを誇るフィンランド教育や、子育て環境でも先進的な取り組みをしている国の様子を、直接見ることができた機会だと考えた。

インターネット時代は便利である。行く前からライブカメラで街の様子を見ることができ、移動経路の情報もある程度シミュレーションできる。しかし、当然のことではあるがインターネットの情報には、現実と違うことが少なくない。ヴァンダー国際空港からヘルシンキ中央駅までの鉄道が直前に開通すると知って、利用することにした。ところが空港の新駅までたどり着くのに砂利道も含めて延々1キロほど歩かされ、バスを利用すればよかったと後悔した。切符を買うにも現金は使えなかった。幸いフィンランド放送交響楽団員だという日本人の方に助けられて何とか切符を買うことができ、思わぬ出会いも旅の楽しみの一つであると言いつつ。

ホテルは、道路を挟んだ向かいには自然史博物館があり、国会議事堂までも歩いて数分ほどで行ける場所にあった。フィンランドと中国の教育協会によるフォーラムが開かれていたし、北海道の中学生たちが国際交流で宿泊していた。学会会場のヘルシンキ大学までは徒歩で15分ほどだった。興味方々歩くことにした。生活感のある路地裏を歩くのが好きだ。人生は表街道旅は路地裏と決めている。

開会式のあいさつでヘルシンキ大学の副学長が、フィンランドとヘルシンキ大学の紹介をしていた。1640年に創立されたヘルシンキ大学は、創立375周年を迎え記念行事が盛んであった。ヘルシンキやフィンランドと聞いて、多くの人は森と湖オ

ーロラといった豊かな自然のイメージを浮かべる。サンタクロースや、アルヴァ・アアルトに代表される建築やデザイン、あるいはトーベ・ヤンソンのムーミンなど思い出される人も多い。少し年配の方ならヘルシンキ・オリンピックも思い出されるようだ。ゲーム好きの人では、IT分野の企業名を思い浮かべる人も多い。

夏休み中ということもあったのだろうが、小さな子どもを3人連れた父親の姿を多く目にした。共働きが多いのか、父親の育児協力があるのかよくわからない。子どもが病気などで学校を休まなければならぬときには、親は休暇を取ることができると聞いて羨ましかった。少子化対策を声高に言っている割には、実効ある政策がなされていない日本との違いを感じずにはいられなかった。子どもが生まれると、国から当面の育児用具が支給されるということからすごい。

反面、物価が少し高いという印象を持った。付加価値税が24%という影響もあるのだろう。そういえば、生活防衛のため海を隔てたエストニアに買い出しに行く家族連れを多く見かけた。船の運賃を足しても、安いということなのだろう。

フィンランドは図書館の利用率が世界で最も高い国の一つである。新しい時代の図書館の役割を卒論テーマにした生徒がいたこともあり、「学びの場」の一つとしての図書館の訪問も楽しみにしていた。特に、ヘルシンキ大学中央図書館はフィンランド国立図書館を兼ねているので、是非入ってみたいかった。しかし残念なことに工事中であった。

日本を離れると、逆に日本のことが気になってしまう。日本の良さもよく見えてくる。日本に取り入れられたものでも、元はかなり違っていることに気づかされることも多い。何でも形だけ真似ればよいというものではない。それぞれの歴史と文化を無視したものは、どこかで無理とひずみが生じてくるのではないだろうか。短い期間であったが、自然との調和を追求するヘルシンキの空気を少しだけ吸うことができた。



最後に、一年間ご迷惑をかけた皆様に感謝を込めて『ムーミン』のスナフキンの言葉を用いた。「たまには休むのもひとつの仕事じゃない?」

スーパーグローバル ハイスクールの取り組み

2015年4月、本学院は文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されました。これにより、「国際共生パートナーシップ構築力育成プログラム」をテーマとする様々な事業に取り組んでいます。

本学院のSGH事業のコアになるのがマイクロプロジェクトです。少人数のチームにより特定の課題に取り組む過程において、知力・共感力・行動力を育み、多様な価値観をもつ人々とのパートナーシップ構築力をもつグローバル人材を育成しようとするものです。以下、現在展開中の主なプロジェクトについて紹介します。

①グローバル社会と人権

現代社会の諸課題を解決するために必須となる国際水準の人権意識を育むプロジェクトです。2年次「政治・経済」の授業では、週1時間を充ててグループワークを中心とする問題発見解決型の学習に取り組んでいます。また、昨年度は沖縄の基地問題をテーマとするフィールドワークを実施し、巡検やインタビューを通じて思考を深めました。その成果は教材「グローバル社会と人権Ⅰ」にまとめられています。

②紡績業を中心とする教科横断型授業

本庄市を含む埼玉北部や富岡製糸場の立地する群馬県周辺では、日本の近代化を支えた紡績業が栄えました。2年次「世界史B」・3年次「古典入門」の授業を中心に、これらの歴史や上海に進出した「在華紡」を通して日中両国の関係を学んでいます。昨年度は富岡製糸場、競進社模範蚕室の見学、近代上海についての特別講義、中国を訪問しての予備調査を行いました。今年度は、江蘇省蘇州中学との共同研究会実施に向けて準備を進めています。

③インバウンド観光プランの協働学習

日本への旅行者は年々増加し、観光は国の重要な産業へと成長しつつあります。そこで、シンガポールの交流校であるNational Junior College (NJC) をパートナーに、インバウンド観光プランをオンライン会議や相互訪問などをもとに考案するプロジェクト

を進めています。昨年11月にはNJCの訪問チームを本学院で受け入れ、グループディスカッションなどに取り組みしました。今後、フィールドワークに基づく具体的なプラン提案と相互評価に向けて活動を継続します。

④海外交流校との発信型プロジェクト

日本福祉大学主催のプレゼンテーションフォーラムであるWorld Youth Meetingへの参加と、同大学の紹介による協働研究パートナー校SMA N2 Yogyakarta (インドネシア)とのプロジェクトを進めています。対面だけでなく、オンラインを活用した打合せと編集作業を行い、英語雑誌FPを制作します。

⑤韓国の高校生とのテーマ学習型交流

修学旅行韓国コースでの交流校となる安養外国語高校をパートナーとして、日本統治時代の朝鮮における植林事業で知られる浅川巧の思想・行動をテーマとするプロジェクトを行っています。昨年度は日韓の近代史や国際交流についての事前学習を重ね、2月には本学院を訪問した安養外国語高等学校の生徒10名とのワークショップやフィールドワークを実施しました。2年次「日本史」の授業での関連学習や、夏季には韓国での共同発表を予定しています。

⑥国際共生ボランティア活動

「思い愛隊」のプロジェクトチーム名で、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター (WAVOC) や学外との環境NGOとも連携しながらボランティア活動を進めています。地球規模で環境問題について考えるためのマングローブ植樹事業への取り組み、ネパールの貧困問題についての学習のほか、本庄市内の老人ホームでの活動実践も進めています。

これらのマイクロプロジェクトの成果報告を兼ね、12月には本学院において国際高校生学会Pre-WaISECを開催することを計画しています。国内外から集まった高校生が、グローバル社会の諸課題について考え、議論し、国際共生のための学びのコミュニティを形成することを目指しています。

Super Science High School事業報告(2015年12月～2016年5月)

■Thailand-Japan Student Science Fair(12月20日～25日)

このフェアは、長くタイの中等科学教育推進に尽力なされてこられたMaha Chakri Sirindhorn王妃の60歳の誕生日を記念し、日本から200名、タイから300名の生徒・教員を招いて、開催された極めて大規模な国際高校生科学フェアです。会場はマレー半島の根本付近「の西海岸、バンコックから車で3時間のPhetchaburi県にあるPrincess Chulabhorn Science High School Phetchaburiです。日本からは25校のSSH校が参加しています。本校は、招待を受け、菊池環・飛知和志保・伊藤三瑠・畑蘭乃・高岡美優・鈴木瑠夏が参加しました。開会式では王妃の来賓を受けました。本庄学院はFarewell Partyの司会を担当しました。



■Mahidol Wittayanusorn School(MWITS) Science Fair 2016(1月25日～2月3日)

このフェアは、タイの科学教育専門校であり、本校と2005年以来長く交流を続けているMahidol Wittayanusorn Schoolで毎年開催されている世界規模の高校生科学フェアです。本校は一昨年より招待を受けています。今年度は、このフェア参加の後、ホームスティおよび学校間交流活動を行いました。山崎晴貴・山口劍伸・百瀬匠真・柴田俊輔・金子奈央・吉田鈴奈・鈴木瑠夏・清水理愛・鈴木未来乃・市川実花が参加しました。プレゼンテーション部門(物理分野)で2位を獲得しました。MWITSとは現在、姉妹校提携を進めており、今後、さらに密な交流が期待されています。



■藤田小学校での講義(2月3日、17日)

本庄学院は藤田小5・6年生の総合学習の年間授業講師をしています。2月3日は茶道部によるお茶会・茶道教室を開催しました。2月17日は本庄市マスコットにはばんも駆けつけ、「プレゼンテーションの名人になろう！(その2)」を実施しました。

■第6回「これがサイエンスだ！」(2月16日)

輪講「これがサイエンスだ！」の年度最終となる講義「はじめての一般相対性理論 ～重力レンズって何だ？～」を実施しました。

■市民シンポジウム(3月12日)

早稲田リサーチパーク3Fレクチャールーム1で、市民シンポジウム「元小山川をとりまく環境について」が開催されました(主催:NPO法人「川・まち・人プロデューサーズ」)。この催し(通称「川シンポ」は、毎年この時期に開催されています。藤田小学校では、年間の河川調査活動成果の発表の目標舞台にしています。学院生が受け持つ、藤田小の総合学習におけるプレゼンテーション指導でも、ここでの発表を最終目標にしています。本庄学院河川研究班からは「藤田小との連携の教育効果」「本庄市内河川における外来エビの汚染状況」について報告を行いました。

■日本水産学会春季大会(3月28日)

東京海洋大学品川キャンパスで開催中の日本水産学会春季大会で、「高校生による研究発表」会が開催されました。総発表ポスター数59本で内容は、遺伝子や腸内乳酸菌を扱った高校生としては極めて高度なものから、海産物を扱った商品の市場拡大など、多岐にわたりました。本校からは「本庄市における河川エビ(ヌカエビ・ヌマエビ類)の分布状況とその考察」というテーマで玉手萌衣・久保田怜奈が発表しました。

■2016年藤田小学校との連携開始(4月4日)および河川研究班決定(4月26日)

この日、藤田小との間で2016年度の年間連携計画を検討しました。また、2016年度河川研究班メンバーが決定しました。1B熊谷琴葉・1D中村華英・1G片岡夏輝・2A小島悠登・2B鈴木未来乃・2E清水理愛・2F杏掛理美・3A荻野結衣・3C畑蘭乃・3D垣鏑結衣・3H玉手萌衣・高崎航平・久保田怜奈の13名です。

■台湾台北市立建国高級中学来校(4月25日)

昨年に続き、建国中学30名と教職員4名が本庄学院を訪問し、開会式・授業参加・研究発表・閉会式を行いました。4時限目には共同して「味噌汁づくり」、昼休みには書道部による歓迎「書道パフォーマンス」が行われました。教職員には茶道部による歓迎お茶会が開催されました。研究発表では、「細管での音速の遅れ」のテーマで3H山崎晴貴、「ソノケミカルによる滅菌」のテーマで2D川澄優介・2G鎌田賢知・原田慧が英語でプレゼンテーションを行いました。



■SSH輪講「これがデータ分析だ！」「これがサイエンスだ！」(ともに第1回)を開催しました。

5月23日(月)「Excelで行う検定」「悪徳商法の心理」のテーマで第1回「これがデータ分析だ！」を開催しました。講師は半田亨(情報科)です。また、翌日5月24日(火)「地震発生の仕組みと法則性」のテーマで第1回「これがサイエンスだ！」を開催しました。講師は新井宏嘉(理科)です。

2016 年度 生徒定期健康診断結果速報

(1) 三測平均値

		身長 (cm)		体重 (kg)	
		学院平均	全国平均	学院平均	全国平均
男子	1年生	169.5	168.3	58.7	59.0
	2年生	170.8	169.8	60.6	60.6
	3年生	171.8	170.7	63.0	62.5
女子	1年生	158.3	157.1	50.2	51.5
	2年生	159.3	157.6	51.6	52.6
	3年生	159.5	157.9	51.4	53.0

※全国平均は平成 27 年度学校保健統計調査速報による

(2) 疾病・異常被患率等

受診者数:1 年 338 名、2 年 351 名、3 年 353 名 合計 1042 名

	視 力※		聴 力		尿検査		心電図		胸部X線	
	C 以下	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率	要精査	被患率
1 年生	82	24.3	7	2.1	0	0	12	3.6	0	0
2 年生	72	20.5	-	-	1	0.3	-	-	-	-
3 年生	60	17.0	0	0	1	0.3	-	-	-	-
合 計	214	20.5	7	1.0	2	0.2	12	3.6	0	0

	内科		耳鼻咽喉科		眼科		歯科	
	要精査	被患率	要受診	被患率	要受診	被患率	要受診	被患率
1 年生	1	0.3	20	5.9	0	0	52	15.4
2 年生	0	0	25	7.1	2	0.6	74	21.1
3 年生	0	0	10	2.8	0	0	54	15.3
合 計	1	0.1	55	5.3	2	0.2	180	17.3

※視力C以下…裸眼又は矯正視力が 0. 7 未満の者

※要精査・要受診等の項目は該当者数、被患率は% (小数点第 2 位以下を四捨五入)

生徒達の活躍

◆硬式野球部

春季埼玉県高等学校野球大会北部地区予選

1回戦 4/12(火) VS秩父農工科学高校 1 4 - 0
(5回コールド)

代表決定戦 4/15(金) VS秀明英光高校 6 × - 5

(9回サヨナラ勝ち)

春季埼玉県高等学校野球大会

1回戦 4/23(土) VS熊谷商業高校 8 - 1
(7回コールド)

2回戦 4/25(月) VSふじみ野高校 0 - 1

(延長10回サヨナラ負け)

◆ソフトテニス部

関東大会県予選会 北部支部大会 男子個人戦(4/25・27)

ベスト1 6 木村晃成(3 C)・小池隼弥(2 B)ペア
宮下皓志(1 B)・小林太一(1 C)ペア

関東大会県予選会 北部支部大会 女子個人戦(4/27)

第1位 辰已穂乃実(2 H)・飯塚優夏(1 F)ペア
ベスト1 6 宮下桃香(2 C)・松村奈央子(3 F)ペア

※上記男女4ペアは、5月に行われる県予選会に進出します。

◆硬式テニス部

学総兼関東予選大会北部地区予選(4/15～18)

男子シングルス

優勝 木元風哉、4位 相原賢太郎、5位 照井瑞規、
11位 阿部元紀、12位 金子曜、14位 岩満大輔、
15位 小川航平

男子ダブルス

優勝 木元・岩満、4位 金子・阿部、5位 相原・岩満

女子シングルス

2位 舟橋萌、3位 森川優希、4位 室伏奏旅、
9位 斉藤ちひろ、10位 伊藤三瑠

女子ダブルス

2位 舟橋・伊藤、5位 森川・室伏、8位 田村鞠乃・斉藤
学総兼関東予選埼玉県大会(4/29～5/1)

男子シングルス

優勝 木元風哉(ベスト8リーグ戦:木元6-4成(埼玉栄)、
木元6-1一山(川越東)、木元6-2福島(浦和学院)、
一位決定戦:木元6-2平野(昌平))、
ベスト64 照井・相原

男子ダブルス

2位 木元・岩満(ベスト4リーグ戦:木元岩満6-4本間
東島(川越東)、木元岩満6-3塩谷福島(浦和学院)、木元
岩満4-6田中田中(秀明英光))、
ベスト32 相原・照井

女子シングルス

ベスト32 舟橋
ベスト64 伊藤・斉藤

女子ダブルス

ベスト16 舟橋・伊藤

※木元君岩満君は6/10～13

茨城県神栖で開催される

関東大会に出場します

(シ枠2ペア)



学総兼関東大会予選団体戦

男子(第2シード)

1回戦:bye、2回戦:3-0深谷第一、3回戦:2-1浦和、4回戦:
1-2本庄東(D照井・岩満1-6笹掛友・並木、S1木元6-1三浦、
S2相原6-(3)-7笹掛光)

女子(第9シード)

1回戦:3-0西武文理、2回戦:2-0浦和東、3回戦2-1伊奈
学園(第8シード)
リーグ戦 1回戦:0-3山村学園(D室伏・斉藤3-6塩谷・矢
崎、S1舟橋1-6黒須、S2伊藤4-6杉田架)、2回戦:1-2浦和
麗明(D森川・室伏6-1山田・神田、S1舟橋1-6奥石、S2伊
藤4-6千原)、3回戦:0-3昌平(D斉藤・室伏2-6多田羅・山
川、S1舟橋3-6中山、S2伊藤1-6谷)、7-8位戦:0-2越谷
南(D森川・斉藤3-6高瀬・松岡、S1舟橋6-(3)-7庄崎、S2
伊藤3-2鈴木(打ち切り))
*男女ともインハイ予選(団体戦)に出場します。

◆陸上競技部

県学校総合体育大会陸上競技の部 北部地区予選会

4/24～26(熊谷文化スポーツ公園)

男 子

100m 7位 河原啓志(2D)

800m 5位 守安剛崇(3A)

1500m 6位 狩野佑介(2F) 7位 守安剛崇(3A)

5000m 6位 狩野佑介(2F) 8位 石川裕貴(3B)

400mH 2位 松久保大智(2D) 4位 神谷衛(3G)

3000m障害 8位 的場寛人(2F)

4X100mR 7位 早大本庄 足立智紀(3D) 河原啓志

(2D) 小前健人(2D) 小林隼太郎(2E)

4X400mR 3 位 早大本庄 神谷衛(3G)河原啓志(2D)

関宏太(2E)藤原航大(3F)

槍投げ 6 位 田中佳吾(3G)

八種競技 優勝 加藤誠也(3B) 大会新記録

総合6位 早大本庄

女 子

100m 4 位 田島春瑠乃(3D)

8 位 山下結衣(3C)

800m 2 位 宮島瑞生(3G)

1500m 5 位 宮島瑞生(3G)

7 位 玉手萌衣(3H)

3000m 7 位 玉手萌衣(3H)

8 位 江幡咲希(3A)

400mH 7 位 田中花梨(3H)

4X100mR 4 位 早大本庄 山下結衣(3B)

田島春瑠乃(3D)伊達美希(3A)鈴木瑠梨(3B)

4X400mR 5 位 早大本庄 田中花梨(3H)

田島春瑠乃(3D) 森はるか(3C) 高原歩希(2H)

走り高跳び 2 位 森はるか(3C)

走り幅跳び 3 位 上野真琴(1A)

槍投げ 2 位 小栗円香(3E)

七種競技 2 位 加藤友子(2H)

総合 5 位 早大本庄

県学校総合体育大会陸上競技の部 県予選会

5/7～10(熊谷文化スポーツ公園)

男 子

110H 8 位加藤誠也(3B)

八種競技 3 位加藤誠也(3B)大会新記録

女 子

槍投げ 4 位小栗円香(3E)

加藤君と小栗さんは、6月に東京・駒沢陸上競技場で行われる関東高校陸上大会への出場権を得ました。

◆ラグビー部

新人戦県北大会

1 回戦 12/20(日) 早大本庄 55-0 合同

準々決勝 12/25(金) 正智深谷 31-7 早大本庄

3 位決定戦 1/6 (水) 早大本庄 31-19 松山

新人県大会

1 回戦 1/11(月) 深谷 85-0 早大本庄

関東大会県予選

1 回戦 4/17(日) 早大本庄 36-14 所沢北

2 回戦 4/23(土) 正智深谷 24-12 早大本庄

◇主将田所賢汰君はじめ、今季のチームの3年生は、入学した時から徹底的に「食事トレ」を行った初めての代です。さらに昨冬からは筋トレの時間を大幅に増やし、とにかく強い体を作ること専念してきました。その甲斐あってか最近ではFWの強いチームにも十分に対応できるようになってきました。関東大会予選では強豪正智に後半に逆転負けを喫してしまいましたが、結果は謙虚に受けとめ、秋の全国大会予選での優勝目指して頑張りたいと思います。1年生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!!ラグビー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味のある人は是非グランドへ見学に来て下さい!!

◆バスケットボール部

男 子

平成28年度埼玉県北部支部選手権大会

1回戦(4/29 熊谷工業高校)

早大本庄 116-51 児玉白楊

(31-15,33-12,32-15,20-9)

2回戦(4/30 熊谷高校)

早大本庄 97-66 深谷第一

(27-16,23-14,24-18,23-18)

県代表決定戦(5/2 熊谷市民体育館)

早大本庄 63 - 73 熊谷

(19-21,17-14,13-22,14-16)

惜しくも県大会出場を逃しましたが、第一シードの熊谷高校と接戦をすることができました。

◇茶道部

本庄市立藤田小学校で茶道教室を開催！

茶道部が、2月3日(水)藤田小学校の5・6年生に対して茶道教室を開催しました。茶道の文化をPPTで紹介した後、お辞儀の仕方、お茶の飲み方を説明し、児童たちにお菓子とお茶が出されました。その後は児童および茶道部員がグループに分かれ、児童たちにお点前を体験してもらいました。

茶道部では、地域の子供たちや海外のお客様に対して、茶道の理解を広げる活動を積極的に行っています。



◇フジサンケイ ビジネスアイおよび産経新聞社主催

第13回「日台文化交流青少年スカラシップ」

マンガ部門

「フジサンケイビジネスアイ賞」受賞

※主催者企画による台湾研修旅行(3/22～27)

メンバーに選ばれる。

菊池環 (2 G)

◇囲碁将棋部(将棋)

全国高等学校将棋選手権埼玉県大会

県民活動総合センター5/1、2

男子個人戦 5 位 2 H 6 江口幸寛

女子個人戦 6 位 1 A 2 阿南美穂

県民活動総合センター5/8、9

子団体戦 2 位 江口幸寛(2H)、尾崎優介(1A)、

露峰航史郎(3A)